

家畜損害防止関連情報

◆乳牛の夏バテ対策

●暑さのストレスは涼しくなってから！！

高温・多湿の日が続けば続くほど、暑さのストレスに痛めつけられた牛は全身の機能が減退します。熱射病で倒れることがなくとも体調不良を引きずり、生理的機能に異常が起こると涼しくなった秋までも、夏負けや夏バテといわれる状態になります。

特に、分べんを控えた乾乳期の牛が夏バテになると、分べん後に病気を起こす危険性が高くなります。暑い夏が終わり、これからという時に廃用や死亡に至る事故が多数発生しています。

●夏バテを防ぐには？

まず、いまの暑さから牛を守ってください。暑熱対策は、単に熱射病や日射病にならないためだけではありません。牛の体が持つ正常な機能が減退することを防ぐことです。

もう一つは、牛に食べさせることです。基本的に夏は暑い状態が続くので、牛の食欲は落ちてきます。採食量が少ないと体に貯えられるエネルギーが減少するので、病気に対する抵抗力も低下し、病気発生の元凶となります。これを避けるためには、まず食べさせることです。

●牛の暑熱ストレスを小さくするには？

◆送風の方向を確認

送風機は牛の周りに風が流れる配置かどうか確認してください。

牛に直接送風する場合、体の側面に当てるよりも、頭の方から風を流した方が熱放射が良くなり、体温の上昇を防ぎます。

◆夜間の送風・冷却

牛の体温は夕方から真夜中にかけて上昇し、乳量・採食量の多い牛ほど体温が高くなります。牛の体に最も冷却が必要な時間帯は、昼間よりむしろ夜間です。

夜間に集中して送風すると、温度の下がった夜の空気で牛を冷やすことができます。

◆新鮮な水を十分に与える

飲み水の不足は暑さに対して致命的です。常に自由に十分な量の水が飲めるようにしてください。